

2010年最後の昇級審査が新横浜道場で行なわれた。



横浜北支部の昇級審査は過酷だ。



「見せかけだけの技ではなく、絶対的な強さを追い求めるのが極真空手だ。」
という今西師範が指導している言葉どおり、
基本、型などはもちろん、少年部から「棒跳び」や「ボール蹴り」等の
基礎体力審査に挑まなくてはならない。



基礎体力審査は付け焼刃での稽古ではクリアできない為、

どれだけの稽古を積んできたかを確認するバロメーターとなっている。

当然、基本や型などでも気持ちが入っていない受審者には

「しっかり握っていない拳で相手が倒れるはずないだろう！」

「1～2年も空手やっていて正拳や手刀がフニャフニャするってのは、やる気がないんだ！」

と容赦のない檄が飛び、緊張感が高まる。



審査の最後は組手。



白帯から相手と全力で殴りあう。



そして上級者は連続組手に挑戦しなくてはならない。

多くの道場が、連続組手は昇段審査のみで行なわれるが、

横浜北支部では2級審査から連続組手を行なわなくてはならない。



「極真空手の茶帯は、実力が他の空手の黒帯以上でなくてはならない。」

という今西師範の考えからだ。

今回の審査でも少年部が3名、一般部が4名連続組手に挑み、見事完遂した。



彼らにとって過酷な審査を乗り越えて手にする帯はずっしりと重みを感じるだろう。

✕ 閉じる